

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	紫金の星と穉き歌と（路傍詩社）
Author(s)	梅田， 鬼村
Citation	龍南會雜誌， 1 5 7： 1 0 7 - 1 0 7
Issue date	1915-03-30
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6471
Right	

□

梅田鬼村

コツコツと時計のねのみ聞く夜半に夜番の聲す故郷の冬
水鳥のつばさも白し筑紫瀉故郷遠くかすみてみゆる
輪にふける煙草のけむりフト消れて吾にかへりしあはき悲しみ
試験終へばすぐ歸り來よとまつ母を思へるなべに雨窓を打つ

□

山根 浩

人間が死に向ひたる時のごと眞面目なることよ試験來れる
裏町の廣き空地^{あきち}は心地よし子供とあそぶ冬のたそがれ
なつかしき出雲の冬は雪ふれり小聲に歌ふ君が小唄よ
かの時は君まだあらずわれひとり赤土山にのぼりけるかな
煙突に煙淡くもたちのぼり雪ふる町はしづかなるかな
雪の夜は街の灯も美しくマントの人の一人通れり
雪の山そがひになして旅役者さびしき町をいでゝゆくかも
寒き風ひた吹きに吹きてはだか木のあらはなる野を我れひとりゆく

—(終)—